


全社横断視点の戦略推進体制

(2017年7月1日現在)

当社は全社横断的な戦略実行を促進するため、2011年よりチーフオフィサー制を導入しています。2017年4月からは経営スピードのさらなる向上をはかるため、チーフオフィサーを増員し、それぞれへの権限委譲を進めています。具体的には、当社がビジネスユニットやグループ会社などの枠を超えて取り組むべき9つのテーマに対して8名のチーフオフィサーを任命し、それぞれが専門とする領域でビジネスユニットやグループ会社の枠を超えて戦略を練り上げ、全社的な課題の解決にあたっていきます。

ここでは、全社横断視点で戦略を立案・実行する立場である副社長およびチーフオフィサーから、それぞれの担当領域における課題と、その解決に向けた取り組みを紹介します。




執行役員副社長
木下 学

お客さま起点での社会価値創造活動を通じた全社成長の牽引

複雑化する社会課題を解決し、継続して社会に貢献していくためには、お客さまとの接点である私たち営業が市場を深く理解し、培ってきた技術や強みを活かして目指す未来を描く必要があります。


市場の変化を適切かつ迅速にとらえ、自ら考え行動する現場力を養成し、AIなど特長ある技術アセットや、各ビジネスユニット・関係会社が保有するノウハウ、ソリューションを最大限に活かした価値提案やお客さま・販売店との共創を実現します。これにより、スピード感ある経営の実践と全社成長を牽引します。



執行役員副社長
石黒 憲彦

グローバルな社会価値創造型企業の実現


安全・安心な都市・行政基盤や安全・高効率なライフラインの構築、豊かな社会を支える情報通信基盤の形成などNECが掲げる7つの社会価値創造テーマは、先進国、新興国を問わず世界中で普遍的な課題であるSDGsとも深く関係しています。各国の政府、自治体、国際機関、現地企業への渉外・営業活動を通じてNECのプレゼンスの向上をはかり、NECがグローバルな社会価値創造型企業として世界の課題解決に貢献できるような努めてまいります。



執行役員常務
CGO (チーフグローバルオフィサー)
森田 隆之

グローバル成長の実現に向けたスピーディな施策展開

NECの最大の課題は「成長」の実現です。そのためには、多岐にわたるNECの事業ポートフォリオの中からグローバル市場で勝てる事業を絞り込み、その事業に対してリソース集中と重点投資を実行する必要があります。このようなオーガニックな施策に加え、お客さまとの共創、政府・国際機関や企業とのパートナーリング、さらには事業買収も含めたインオーガニックな施策を大胆かつスピーディに進め、「成長」を実現していきます。セーフティ・セキュリティ、SDN/NFV、IoTの3つに重点を置いて、NECが一枚岩となって実行にあたるため、CGOとしてこれらの施策を主導していきます。




執行役員常務
CFO (チーフフィナンシャルオフィサー)
川島 勇

課題事業への対応や費用構造改革の推進に加え成長領域へ資源再配分

当年度は既存事業が減少する中で新規事業が思うように立ち上がらず、課題事業やコンプライアンス問題の発生もあり業績が大きく下振れする結果となりました。

次年度は、コンプライアンス遵守を徹底すると同時に収益構造改革を推進し、2018年度の業績拡大に向けた土台固めをする年となります。そのために必要なリソースシフトや成長戦略の実現に向けた資金投入など、攻めと守りのバランスをとった事業遂行を財務面から支えていきます。



執行役員常務
CTO (チーフテクノロジーオフィサー)
江村 克己

技術を基点としてNECの次なる成長に資する事業を創出

来たるべき社会とその課題を描き、より広い範囲で課題解決と価値創造を行うことで、自社も成長することを目指します。事業戦略と一体化した技術開発戦略を構築し、自社の持つ強みを徹底的に強化して、競争力ある事業の創出につなげていきます。


これらをスピード感を持って進めていくために、顔認証に代表される画像処理や、AI技術群「NEC the WISE」、セキュリティといったNECの持つ技術の強みを根柢に社外との連携を進めます。他社との戦略的連携、大学や研究機関との大型連携、ベンチャー活用をこれまで以上に推進することで、より大きな価値の創造へとつなげていきます。



執行役員常務
CIO (チーフインフォメーションオフィサー) 兼
CISO (チーフインフォメーションセキュリティオフィサー)
堺 和宏

デジタル経営の実現にむけたICTの整備

デジタルトランスフォーメーションの時代においてICTの重要性は今後ますます高まっています。当社がこれまで強化してきた経営管理基盤をベースとしてデジタル経営を支えるデータ活用を拡大し、AI、IoT、クラウド、セキュリティなどの強みを活かしたICT基盤の強化を推進することで、経営管理制度の高度化に寄与していきます。




執行役員
CMO (チーフマーケティングオフィサー)
榎本 亮

デジタル時代の変革パートナーに相応しい、「共創」を軸とするブランドイメージの確立

信頼できる、親しみやすい、といった従来のNECブランドのイメージに加え、当社が目指すサステナブルな社会の実現に向けて、「共創」という観点でのブランドイメージ強化に取り組めます。One NECとして語るべき全社目線のストーリーをCMOオフィスが積極的に統括することで、当社の情報発信力をよりいっそう高め、「お客さまから変革のパートナーとして認められるNEC」という姿の実現をブランディングの側面から支えていきます。

加えて、市場の動きやお客さまの期待をいち早く感じ取り、スピード感を持って当社の戦略に取り込んでいきます。




執行役員常務
CHRO (チーフヒューマンリソースズオフィサー)
牧原 晋

収益性を高め、優れた技術・リソースをもとに成長軌道に乗せる

お客さまのニーズは、社会の構造の変化や技術の進化によって絶えず変化しています。この変化に対応するため、従業員の能力開発を促すとともに人材の最適配置を推進し、NECの変革を支えます。

加えて、働き方改革を通して生産性の向上とダイバーシティの推進をはかります。職場環境を整え、働き方を工夫することで、NECを多様な人材が活躍できる会社へと変えていきます。これらの取り組みを通してNECグループの組織力を高め、グローバル化を実現していきます。




執行役員常務
CSO (チーフストラテジーオフィサー)
松倉 肇

現場の「稼ぐ力」を再生する

全社戦略を見直し、ビジネスモデル転換の加速と提供価値の増大を目指します。そのために適正な資源配分、責任と権限の明確化を徹底します。併せてマネジメントと現場のオープンかつ深いコミュニケーションを継続的にを行い、双方の思いや危機感を共有します。

ゴールは環境変化に遅れることなく不断に自己変革する組織づくりであり、現場の稼ぐ力の回復です。



執行役員
CCO (チーフコンプライアンスオフィサー)
小幡 忍

コンプライアンスをいかにして企業文化として根付かせるか

当社は当年度に、公正取引委員会から3件の独占禁止法違反行為があった旨の認定を受けました。NECグループでは、従来、コンプライアンスを経営上の重要課題の一つとして捉え、さまざまな施策を講じてまいりましたが、チーフコンプライアンスオフィサーとして、再発防止の徹底に努めます。当社の信頼回復に向けて、今回の事案を社内でも風化させることなく、コンプライアンスを企業文化として根付かせていきます。

当社の執行役員に関する詳しい内容は、下記URLをご覧ください。

<http://jpn.nec.com/profile/corp/executives/svp.html>